



●ひろのまち

広野町

広野町震災記念公園

●ひろのまちしんさいきねんこうえん

防災緑地の一面に残る震災の記憶



最大震度 6弱

浸水面積 2km²

最大浸水深 9.08m



全壊 160棟

半壊 593棟

一部損壊 3,244棟



死者 49人

行方不明者



負傷者 不明

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.11下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

町は駅東地区の防災力を高めるため、海岸堤防や県道とともに、ひろの防災緑地を整備。その敷地には、震災の記憶を風化させないようにと震災記念公園が造られました。記念碑には被害状況や、原発事故による全町避難を経て復興・再生へと歩んだ経緯が記されています。また鹿嶋神社が隣接しており、記念碑の前には井戸の跡を残すなど、浜街道の宿場町として栄えた歴史も同時に伝えていきます。

写真右手前から、高さ8.7mの防潮堤、高さ10.5mの県道、高さ10.7mの防災緑地の多重防御で整備。地元有志などによるサポーターズクラブを結成し、県や町と協定を結んで、維持管理や利活用などを行っている



緊急時避難準備区域の解除から、2019年には9割の町民が帰還し、生活を再建。立地を生かし、幼児教育から高等教育までを隣接で行う教育の丘の整備や、駅周辺の再開発など、町もどんどん活気を取り戻した



全長約2kmにおよぶひろの防災緑地は、全体盛土量約38万m³で、クロマツ、クヌギ、コナラが約6万本植栽されている。過去には、全国から500人を超えるボランティアが参加した苗木の植樹祭も実施された

双

葉部の最南端に位置する広野町には、震災時に推定9m以上の津波が押し寄せました。また東京電力福島第一原発の事故により、3月13日に町独自の避難指示を発令し、全町避難を経験。その後、第二原発から半径20〜30km圏内に含まれる町全域は、緊急時避難準備区域に指定されましたが、解除後は震災時に約5500人だった人口が徐々に戻りはじめ、2019年には約4200人まで戻っています。

？ ？ 考えてみよう

Q1 地域ぐるみで大きな森をつくろうと、サポーターズクラブではとあるプロジェクトを主催しました。町内で木の実を拾い、それをポットに植え付け、育てた苗木を小学生と植樹。地域に親しまれ、子どもたちの遊び場となるような緑地にすることが目的でした。防災緑地で今も元気に育っている、その木の実とは何でしょうか？

A1 どんぐり。このプロジェクトは「どんぐりプロジェクト」とよばれ、防災や環境の大切さを学ぶ機会として多くの人が参加した。

慰霊碑公園

車椅子OK

施設DATA

●ひろのまちしんさいきねんこうえん

広野町震災記念公園

☎0240-27-2111(広野町総務課) MAP P116F3

④広野町下見川字本町3

④JR広野駅から徒歩11分

👤👤見学自由

📍あり(大型バス:なし)

注①出典:福島県広野町東日本大震災の記録Ⅳ「ふる里」幸せな帰町”復興・創生への道のり、令和3(2021)年8月11日、広野町